

刊夕日四十月一十

常磐每日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 電話 六三〇〇
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

因縁の糸あり

眞繼雲山

眼に見えないからといふ「無い」と断言することは出来ぬ、顕微鏡の發明される以前から微菌はあつた。だゞ不完全な肉眼で見得なかつただけである。

我が家は貧にしてアンテナを立て得ずといへども、電波は虚空を走つて、ラヂオは向ふ三軒でうなつてゐる。たゞ不完全な耳がアンテナ無くしては、それを聞き得ないだけである。

眼に見えざる冥々の裡に因縁の糸は鐵索の如く縦横にからみ合ひつゝ延びてゐるのであり、この因縁の糸なくして諸法はあり得ないのである。

私はかつて何十年かの昔青春の頃、或る花の如き一少女(と當時の私には見えだが)との戀におちた。やがて私は海山萬里の雲を踏んで遠國への永の旅路に上る事となつたとき、彼の女は無心で錢別にとて見事な鉢を贈つてくれた。私も感謝しつゝ無意識にそれを受けた。鉢と糊は當時の私の商賣道具であつたのである。所が彼の女の心一ぱいの贈り物を受けた後の二人の戀は、それなりけりて永久

に断えてしまつた。さうして私の生涯の運命も、グン／＼轉換して行つた。成るほど鉢では縁のつながらる管はなかつた。

源義朝、平治の亂に一敗して。腹臣金王丸を従へ尾州を指して内海に上陸し、縁邊の舊臣、長田忠致を訪ふべく、途にして道を一老婆に尋ねた。その老婆の返答が不吉の言であつたとて金王丸は怒つて一刀の下に斬つて捨てた。義朝は日ならず果たして長田の館の湯殿に悲壯な最後を遂げた。

原稿募集

それは老婆を斬り捨しの罪か、斬らずとも老ばの不吉の言、既にこれを豫告せしものか。そも／＼亦た宿命なるか。人間の淺智慧を以て、冥々の因縁の道を知る由もない。

顯微鏡のやうに、ラヂオのやうに、因縁の道を論理的、科學的に鑑別し得べき便利な器械が發明されるまでは、たゞつとめて善心をもち善行を修し、事に當つては鉢を貰はず、老ばを殺さず、虫一疋でも無益な殺生を慎むといふことが、萬全の策にあらずとするも少くとも宿因の道を肯定する者として、人生行路で次善の策とすべきか。



ダリア

大竹秋平

春四五球植えたダリアの球が芽を出してすくすくと育つて行つた。そうして夏から秋まで咲いて自分を慰めてくれた。友達にも分けてその喜びを共にした。それにしてもこんな小さな球にこれ程までに自分等を慰めてくれる力があるのかと思つた時

自分とは思はずも自然のもつ微妙なる力の前に? 深い感激の心をもたづには居られなかつた

無料検眼 各眼科院御用
 根本時眼鏡部
 田部六

外科 X光線科

安齊外科醫院
 電話四七五番

セメント 壁用材料
 コルタル 代理店
 ペンキ塗料
 板ガラス
 西村屋藥舖
 平町二丁目(電三)

高久病院

院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科
 平町田町 電話五一三番

冬服貯箱

紺色柄物... 三ッ揃... 拾貳圓
 最新柄... 三ッ揃... 拾三圓五十錢
 最新柄... 三ッ揃... 拾三圓五十錢
 高級品... 三ッ揃... 拾九圓
 平町正札堂洋服店 電話四三六

醫學博士廿推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症
 肥り度い人の福音 熱くなく痕つかす無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器

志賀齒科醫院
 福島縣平町五ノ廿八

器灸温ムウチラ

特卸治 約代理 販理部
 金拾參圓上製桐箱入一揃
 金拾圓上製桐箱入一揃
 (說明書呈)

正確な時計
 正一常盤屋時計店
 好適の眼鏡

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
 關内藥局
 電話四〇番

蠶業取締支所

平町に新設内定

但し敷地建物等は寄附

豫て蠶業取締支所設置に關し石城郡關係者は地元選出各縣議と共に猛烈な運動を起して縣當局に強硬な陳情をなしたつゝあつたが

石城郡はその産額が縣下の第六位を占め最近各町村に養蠶實行組合の設立と共に隣郡双葉郡の久之濱支所だけでは不便甚だしくどうしても之に關する取締支所の必要を認められ

縣當局では地元敷地建物等一切の設備を寄附させる條件の下に明年度から新設することに内定した模様である

寄附も

已むを得まい

通達はまだない

伏見平町長語る

蠶業取締支所設置内定の報

と動運國の神 境心の氏川賀

る語氏城月村中

來月八日賀川豊彦氏來平すべきは昨記の如くであるが同氏と神の國運動に關し日本基督教會牧師中村月城氏は左記の如く語つた

◇東洋の精華は精神文化である。三千年前の我等の祖先は何等誇るべき物質を有つてゐなかつたが、天地に盈つる精神的生命力は是れを豊かに所有してゐたのである。然るに現代の貧窮民

は、この尊い傳家の寶——精神的生命力——を見失はんとしてゐる。而して徒らに經濟困難を叫び

◇この大業の前には宗派も超越せねばならぬ、自分の家庭も守つては居られぬ自分の生命さへも惜んで居られぬ、と言ふのが我が賀川氏の心境であり、而して神の國運動なのである。氏は病身である、醫者は屢々精養を命じる、然し氏が家庭の人となつたのは昨年一ヶ

各町村に亘るものであるからその方面とも充分協議しての上寄附云々は決定される筈です」と語つた

町村長支會

入營兵關係事項

十八日協議

石城町村長支會では十八日午前十時から平町役場會議室に參集今回各町村より第二師團へ入營する入營兵の送別及び入營當日の付添其他に就いて協議すると

不況に反し 賃銀を値上げ

小田炭礦の従業員

ホク／＼顔

二十馬力のモーターを据附け十時と十一時の鐵管二本で坑内の溜り水を排水したもので今回の増給は全國至る處不況の折賃銀値下の聲を聞くに反して意外の現象なので従業員は非常に喜んでゐる

公設質屋の 資金増額計畫

小泉湯本町長

出縣陳情

小泉湯本町長は昨十三日石川縣議と共に出縣し町營公設質屋における融通資金の補助増額を陳情したが湯本小名濱等の町營公設質屋は開始されて以來日まだ淺い

が一般に中産階級以下無産者間において盛んに利用されるに至つた爲め細民救済事業の有力な一事業と觀られ將來は大いに期待されるものあり之が徹底的普及に關しては幾分資金不足さへ告げるに至つたので各當事者は貸付資金の増額を計ると共に明年度補助の増額も陳情したものである

統計事務講習會

來月初旬平町に開催

を發した

去十二日團體事務所に行はれた各町村統計主任會議の折縣吏員の勸めで平町に統計事務の講習會を行ふべく計画中であつたが平町役場では最近右講習會を開催すべく關係各町村へ打合せ中であるが大體講習會は十二月初旬の二日間縣統計課長を招聘し統計事務の指導其他の講習を行ふ豫定である

四倉町有権者 四倉町選舉有権者は目下名簿總覽中であるが衆議院一千四百五十二名、町議一千三百七十九名で前年に比し九名と七十二名と増加してゐる

十萬圓到達

直に支拂協議

平町における簡保借入金は早くて十六七日頃と見られたが十三日急親展の書留を以つて日本銀行平代年間に僅かに十數日であつた

◇南船北馬、席暖るに暇なしとは氏に於ては全く文字通りの事實である。眞に決死的の活動である。ちつと賀川氏のことを考へると胸は高鳴り、熱い涙が眼にちんでくるのを私は制することが出来ないのである

販賣利用組合

總會協議事項

昨報明十五日開かれる石城販賣利用組合總會の報告及協議事項は次の如し

一、秋季繭取引經過に關する件

一、土地處分に關する件

一、農業倉庫業に關する件

一、俵米品評會に關する件

一、警備閉鎖に關する件

一、中央金庫市場資金返償準備に關する件

一、明七年度事業計劃に關する件

郡下水稻品種

作付反別調査

郡農會橋本技手及び穀物検査平支所員が協力調査した石城郡下の水稻品種別作付反別の調査は過日完了を見たが右調査による郡下の稲種反別及び通苗代、水稻第二次採種團の總計は左の如くである(・は畝位)

△粳 八〇元、四〇・三

△糯 二四、一〇・五

△粳糯 九八四、四〇・六

△通苗代 四〇、八・三

△水稻第二次採種 三、一八・〇

△松本清之丞氏 十三日午後二時十分發行即歸平

コンパルの改築

3階には西洋間が出來ました。
2階は宴會のホールと日本間。
1階の食堂は廣くなりました。

洋食茶會 舊倍の御引立を偏に御願申ます
電話六六六番
平驛前通

平町人事

回出生

△鈴木辰三郎氏 同日午後九時十一分原町より歸平
△田中宮城控訴院長 十四日午前八時二十分仙臺行
△石井福島裁判所長 同右

轉移築新

院醫吹矢

科兒小科内
科病柳花

り通社縣町治鍛古
番六六二電

豫備役の息子は 今どこに居る

日支風雲急となり
氣をもむ母親

江名町字中の作榎戸吉田久太郎長男忠三(三)は漁夫として目下銚子沖に出漁中であるが同人は現在豫備役の軍籍にある關係から日支間の風雲急なる今日いつ召集令状が来ないとも限らないから同家では同人の居所をばつきりして置きたいと實母まつが同町役場及駐在所に安否調査を願ひ出た

白土會

素詣大會

明日一の井に
平町喜多流謡曲白土會秋季大會は明日十五日午前十時から一の井にて開かれるが素詣番組は次の通り

- 月宮殿 夜討會我 千壽
- 蟬丸 鞍馬天狗 竹生島
- 俊成忠度 井筒 櫻川
- 橋辨慶 土蜘蛛 枕慈童
- 經政 羽衣 通小町 松
- 虫 紅葉狩 猩々

標準候補米

本郡提出者

本日發送す

福島穀物検査所では来る十七日における本年度新米の標準米制定に關し豫て平支所宛に之が候補米選出を依頼中であつたが平支所では今回左の諸氏が候補米の提

佐藤氏も出發 一家を擧げて南米ブラジルへ移住する佐藤武雄氏の家族は十五日午前八時四十五分平驛發上り列車で壯途につく事に決定した

カナリヤ展 珍らしい會

磐城カナリヤ研究会では来る十五日にマルトモホールにて會員及び一般カナリヤの愛好家連が集まりカナリヤの陳列會を開催するがこの種の催しは此地方で珍らしいので可なり人氣ある

道を横切る子供

自動車に轢かる

石城郡小名濱町中坪馬目方居住太田秀康(三)は今日十四日午前十一時頃湯本町高岡自動車店方の湯本小名濱間乗合自動車を運轉し湯本町關船地内の縣道を疾足中同町字九乃谷諏訪五二佐藤孫右工門長男正雄(九)が路上を横切らんとした處を誤つて轢き倒し全治三週間の重傷を負はせた

縣廳記者團來郡

福島縣廳記者團一行十四名は地方視察の爲め本日午後二時四十七分福島驛發で出發湯本町に至り同夜は小名濱町錦聲館に一泊十五日は漁港水産試験場を見學の後磐城丸にて豊間海岸の大敷網漁港を視察平町より歸福する

友人置き

飲み逃げ

内郷村大字宮土工黒澤清(三)は湯本町の友人を馳走してやると稱して三日夜南町カフエーボタンにつれこみ酒、洋食八圓餘をつめこみメーブルをあけた揚句友人を置き去りして逃走したので捜査中のところ昨十三日平署に檢舉された

横領

外交員檢舉

石城郡平町堂の前一六梅原喜太郎(三)は昭和五年九月郡山市古館五日本簡易火災保險郡山出張所長米田恒四郎方に外交員として雇はれ同六年九月までの間に被保險者三十名から取り立てた保險金九十圓五十錢を横領費消したと發覺十二日郡山署で嚴重取調をうけた

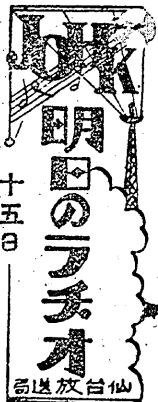
試作馬鈴薯良好

神谷村石城農事試験分場の馬鈴薯岩手三號種試作の結果

同じ家へ二度忍ぶ

窃盜犯人捕はる

石城郡内郷村大字宮字竹内坑夫吉田龜吉方で十日午後七時頃所用の爲め不在にして居た際何者かに忍込まれ金時計一ヶ時價廿五圓其他衣類等窃取されたので豫てより平署では犯人捜査中十三日午後八時頃再び同家に忍入らんとする者を密行中の平署員が取押へたが右は石城郡好間村大字上好間字三反田生當時内郷村大字宮字峯根志賀飯場内坑夫吉野留正(三)と云ふ者で前記吉田方の窃盜を自白したので



明日のラジオ

今夜は南東の風曇り明日は小雨午後よくなる

今晚の部

- 後六、〇〇 お話と唱歌
- 「仙臺市民歌の發表に就て」唱歌 仙臺市立町小學校兒童
- 後六、三〇 英語講座 青木常雄
- 後七、三〇 講演「戦争と科學」緒方勝一
- 後八、〇〇 箏曲「松風」
- 「新高砂」横田伊久井他
- 後八、三〇 長唄新曲「曙」東京音樂學校生徒

明日の部

- 後九、〇〇 ピアノ獨奏 一掃寫曲八章 他二曲 笈田光吉
- 後九、〇五 觀兵式狀況
- 後一、一〇 講演「兒童の榮養食に就て」佐伯矩
- 後一、四〇 聲樂と音樂 獨唱黒田謙 ヶアイオリ
- 高橋五郎 ピアノ山村ユキ子
- 後一、五〇 常盤津「節句遊窓の手習」常盤津勝孝

随分ね...、ならい、ワ、運動會へも行つてやらない
と言へば「來て貰はない方が反つて結構」といふことなつたので中學生、進退多ニマシ
校長先生、あんまりなと恨むこと

平職業紹介所便り

- ▲求人部
 - △酒屋配達 十七才 乃至廿才 住込月十圓(東京市本郷區)
 - △女中 廿五才 乃至四十才 住込月七八圓(赤井村炭礦)
 - △外交員 四十才以下 尋卒以上 歩合給(平町火災保險駐在所)
 - △女中 十八歳以下か五十才以上 住込月五六圓(湯本町整骨醫)
- ▲求職の部
 - △事務員 廿七才 中卒 給料面談(久の濱)
 - △土工 廿一才 尋卒 通勤八十錢位(平町)

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

- △木炭配達 廿八歳 尋卒(平町)
- △ペンキ屋徒弟 十九歳 高卒(平町)

小説 七五郎

(八十五)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

意氣地 (10)

せき立てられるほど二人は慌てた。
立たうとした源之助は打たれた、軀の痛みに思はず踏け出した、それを歌治が支へようとした機会に肩へのし掛かれて、双にとしりと仆れた。

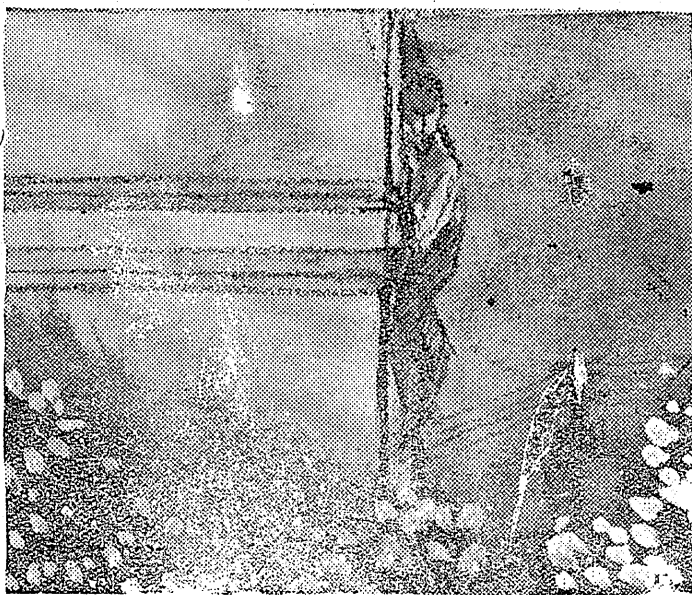
相憎絨氈の布いてない板敷の上、それが可成大きな響を立てた。
『チョッ仕様がないなア、静かにしなさいと云つてるに』

儀助は思々しげに舌打ちした、そして小早く窓の硝子戸を明けて、つなき合せた窓掛けを外へ手繰り下した。

「サア、こいつに捉まつて此處から出んですよ、い、ですか。私一足先に降りて行つて裏門の所に仕度して待つて居から、落ちこまないやうに、氣を付けて、急いで降りて来て下さい、ぐづぐづして居て見つかると大変ですよ急いで……急いで」

悠う言い残してひらりと窓外へ脱け出たかと思ふ中に野猿のやうな、速さで忽ち姿が消えた、窓の部分だ

けにほのかな月明りか曉のやうな白さを漂はした。
歌治は其の光を望んで男を扶けながら進み寄つた。
『貴郎、さきに出て下さい早く。早く』
源之助はそごろ心にその窓掛けにつかまつた、歌治は後から其の腰を押した、け



れども承らく針金で縛られて居た爲に手も足もしびれて、ひどく疲れ切つて居るので思ふやうに體が浮かなくなつた、足を窓掛けにふみかけては幾度かどしんどしんと床が鳴つた。

生憎にも其の眞下に、あまさんのボイドが寝て居た彼れは先刻から目を覺して怪しい二階の物音に耳を濟して考へ込んで居るのであつた。

『あ、あの小僧だ、小僧が苦しがつて暴れてるんだいくら彼奴が暴れてもあの通り手足をひどく括られて居るんだから、いくら悶いても、どうしても逃げられない氣づかいはないが、器械でも壊されると厄介だからどれ一寸二階を見廻つて怒鳴りやらつばなるまいよ』
ボイド婆さんはしん臺の上で、一度、然う考へたが

だ、婆さんは吃驚して枕の上に鎌首を立て耳を澄してじつと考へ込んだ。

『何んだらう』
眼を睜はる下から、其處が丁度源之助を禁へある室の窓と一直線になつて居る庭だと氣が付いて思はずムツクとしん臺から飛下りたそうして忙しく窓掛けをまくりあげ硝子戸をばつと開いて庭先を差し覗いた鼻の先に何にやら長い布がだらりと垂れ下つて旗のやうに動いて居るのを見出した。
愕然としながら窓から首を出して仰向いた刹那、その布を傳はつて上からツルツルと黒い物が落ちて来た、それがしたゝかに婆さんの顔をなぐり付けてストント大地へ降り立つた、婆さんは目も鼻も潰れたかと思ふ程の痛さを感じた。
婆さんは、さやつと云つて首を引き込めた。

毛糸と編物用具

全部新色三二

入荷致しました

相變らず御用命の程……

平田町
ハシモトヤ
糸店

お醤油は……ヤマフル

醤油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

鹽屋
金山崎合名會社

福島縣平野町
電話(營業部一〇番)
(醸造工場二七番)

うなぎ料理

- ◇ いよいようなぎの季節……
- ◇ 御用命はぜひ江戸川へ——

江戸川
(電話六七七番)



子宮病血の道の方は左記の良薬をお用えになればラクに自宅で退治出来ます

宮温湯
腰部をアタメ、子宮病を治す
美神湯
服薬血の道薬

平町古鍛冶町
一手
阿康藥舗
電話四四番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

御用命は印刷物の總て
常警日印刷株式會社
電話三六〇番